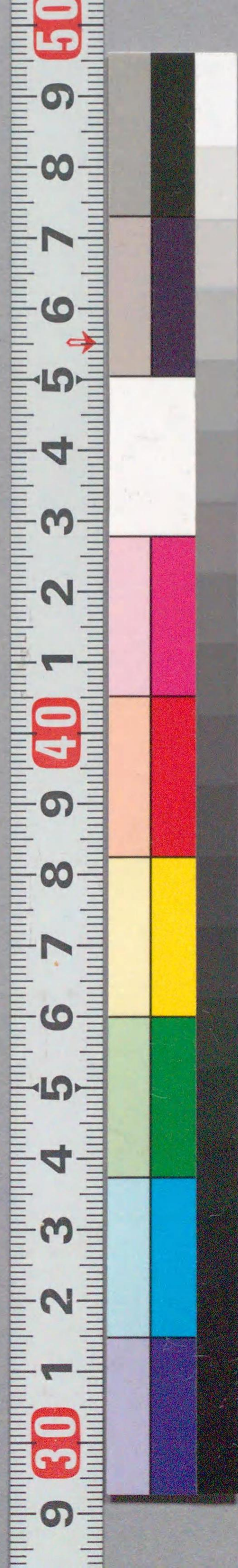


怪物つれく草

207
281



怪物つれ草

寛政四壬子春

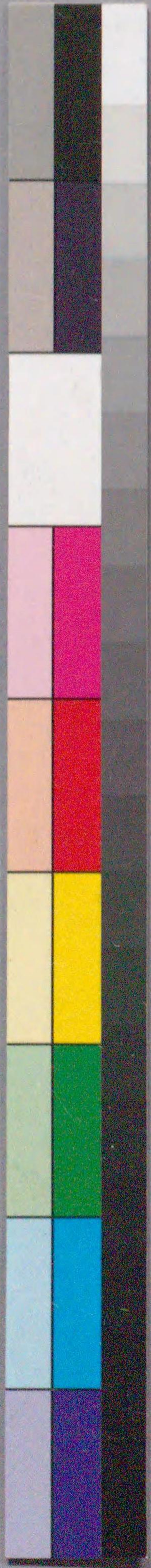
207
281



余廻問這筒の禪史を著はき趣意ハ水虎の尻玉
 乃如く亦野猫乃斬睡し似たり帖之ハ二卷開
 之ハ十枚抄菊が皿の關するあま見越の首の餘
 まふのつ則瑩合戦の明をかりて出たの燈を
 かき奪ふ赤の筆を執りて徒身一盞の油を減
 一孤色乃表紙をかきまふ而も緘しこつ目乃
 錐を用ひ言ハ化物屋紳乃日記の如く画ハ珍
 物茶屋の筒版子等し生臭き風の朝微く
 雨の夕寂寥うら子供衆批書籍を御覽しと函茶
 をめづれし
 鶏子代子
 山男多々
 大高月
 山東京傳題

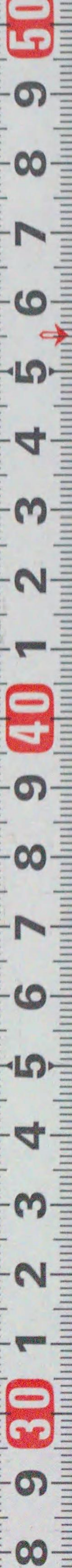






国立国会図書館 怪物つれつれ草：2巻 207-281

ガラス使用



207
281



京傳作







国立国会図書館 怪物つれつれ草：2巻 207-281

ガラス使用

